

紫峰の風

shihou no kaze

筑波大学

University of Tsukuba

第28号 2023年4月

『紫峰の風』は学生生活の様子や活動の報告を紫峰会基金協力者の皆様にお届けする広報誌で、紙面の企画や記事の取材等は学生広報会議や広報部会の学生が実施しています。この名称には「筑波の峰から吹き降りる風に、我々の活動への想いを乗せて、全国の皆さまのもとへお届けする」という意味が込められております。

筑波大学紫峰会基金にご寄附いただいている皆様へ

～学長からお礼のメッセージ～

日頃より筑波大学の活動にご理解をいただき、誠にありがとうございます。保護者のみなさまにおかれましても、厳しい社会情勢が続くなか、大変多くの皆様から「筑波大学紫峰会基金」にご寄附を賜り、心よりお礼申し上げます。

本学では、感染防止対策を講じた上で学生の課外活動や学生生活が充実したものとなるよう、より一層支援を続けてまいります。また、本学は今年、創基151年開学50周年を迎えます。保護者のみなさまにおかれましては、本学の活動へのご理解ならびに学生への温かいご支援のほど、引き続きよろしくお願い申し上げます。



筑波大学長 永田 恭介



永田学長による式辞

令和4年度 筑波大学卒業式・大学院学位記授与式

3月24日、令和4年度筑波大学卒業式・大学院学位記授与式が大学会館講堂にて挙行されました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、式典の出席者は卒業生・修了生のみとなりました。

午前の学群卒業式では学群卒業生2,145名および理療科教員養成施設卒業生12名、午後の大学院学位記授与式では大学院修了生2,103名が新たな一歩を踏み出しました。花曇りの空のもと、大学会館外の広場では記念撮影や歓談が穏やかに行われていました。

(取材／広報部会 高見沢仙美・数理物質科学研究群国際マテリアルズイノベーション学位プログラム博士前期課程2年)

－内容－

キャンパスニュース、交際交流、保健管理センターから… 1、2頁
学生生活課より、筑波大学の就職支援、学生相談室から、
桐の葉日記、紫峰ギャラリー、お知らせ …… 2頁
特集、芸サ連、体育会活動紹介 …… 3頁
全代会、文サ連、医学部会、企画記事紹介、紫峰会基金より
…… 4頁



会場を埋め尽くす新入生

令和5年度 筑波大学入学式・大学院入学式

4月5日、令和5年度筑波大学入学式・大学院入学式が大学会館講堂にて挙行されました。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、式典の出席者は新入生のみとなりました。

暖かい春の日差しに包まれながら、午前の学群入学式では、学群生2,255名および理療科教員養成施設入学生14名、午後の大学院入学式では大学院生2,540名が入学し、新たな学生生活のスタートを切りました。

(取材／広報部会 高見沢仙美・数理物質科学研究群国際マテリアルズイノベーション学位プログラム博士前期課程2年)

今後の主な予定 (変更になる場合があります)

春季スポーツ・デー	5月13、14日(予定)
春Aモジュール期末試験	5月23日
春ABモジュール期末試験	6月28日～7月4日
春ABCモジュール期末試験	8月3日～8月9日
同(東京キャンパス・夜間)	7月25日、8月2日～8月5日
春学期授業終了	8月9日
同(東京キャンパス・夜間)	7月29日
期末試験予備日	8月10日
(東京キャンパス・夜間)	8月1日、9日、10日
春Cモジュール期末試験	8月10日
夏季休業	8月11日～9月30日
(東京キャンパス・夜間)	8月11日～9月30日

キャンパスニュース

令和4年度 卒業式の様子



学位記授与



講堂に集まる卒業生

令和5年度 入学式の様子



学長式辞



大学会館前広場の賑わい

TSUKUBA LIVE!

ハンドボール部

中央体育館の試合会場に入ると、既に幅広い年齢層の観客でにぎわっていた。受付では、競技や選手について書かれたパンフレットや応援用のスティックバレーンが配られ誰でも楽しめる工夫がなされており、スポーツ観戦初心者の筆者も非常にわくわくできた。

応援は声出し OK で、迫力満点のシュートを打ったり攻守が入れ替わったりするたび大きな歓声があがった。

ハンドボール部所属の友人の紹介で当イベントを知ったという学生は、「初めてハンドボールの試合を近くで見たが、シュートの迫力に圧倒された。応援も一体感がありとても楽しい」と語った。

会場：筑波大学中央体育館

対戦相手：【男子】明治大学【女子】日本女子体育大学

(取材／広報部会 河原井かれん・人間総合科学研究群芸術学学位プログラム博士前期課程2年)



試合と応援の様子 2023年3月22日撮影

国際交流

スチューデントサポートセンター国際交流支援室

【ウクライナからの学生受入れ】

2022年2月に始まったロシア軍によるウクライナ侵攻により、ウクライナにおいては危機的状況が続いています。本学では、2022年4月13日に「ウクライナからの学生受入れについて」を公表し、現地や避難先で困難な状況の中、学修・研究の継続を希望するウクライナ人学生の受入れを開始しました。

2023年3月現在、特別聴講学生として学群レベルに28名、研究生として大学院レベル12名の学生が在籍しています。学生達は、来日当初は異文化での生活に戸惑いながらも、意欲的に学修に取り組み、サークル活動や地域社会との交流活動などにも精力的に参加しています。

支援開始当初は2023年3月までの受入れを予定していましたが、ウクライナ国内の状況の改善が見られない中、2024年3月末までの受入れ継続を決定しました。



永田学長を表敬訪問



嘉納治五郎像前で

【筑波大学海外留学支援事業 はばたけ！筑大生】

本学では、学生の潜在的な留学希望の発掘とともに経済的支援を行うことにより、多くの学生の海外留学を促進し、世界で活躍できるグローバルイノベーション人材を育成するために平成27年度に創設され、以降、毎年実施している海外留学支援事業(はばたけ！筑大生)を令和5年度においても行います。

新型コロナウイルス感染症の状況は総じて改善してきていますが、一方、航空券価格の上昇や円安による留学諸経費の負担増の懸念も見られる中、令和5年度はこれまでの募集方法等(前年12月期募集、4月期募集、追加募集等)を基本に、第1回、第2回及び第3回の年3回の定期募集として、学生の海外留学を支援します。

また、令和3年度から、新型コロナウイルス感染症の影響により海外渡航ができないため、海外大学等の国際交流協定校の授業をオンライン形式により留学と同等の授業科目を受講した場合または海外学会や海外研修に参加した場合に、経費補助金を支給する制度を実施していますが、令和5年度においても継続して行っています。

①国際交流協定校交換留学支援プログラム	本学と協定校との協定に基づき留学をする学生を対象に旅費・滞在費の一部を支援
②キャンパスインキャンパス（CiC）等支援プログラム	CiC パートナー大学との交換留学を行う学生及びダブルディグリープログラム、ジョイントディグリープログラム等へ参加する学生を対象に旅費・滞在費の一部を支援
③海外武者修行支援プログラム	任意結成された学生グループを対象に企画内容に応じて旅費の一部を支援
④海外学会等参加支援プログラム	海外での国際学会、シンポジウム等で研究発表を行う学生を対象に旅費の一部を支援
⑤語学研修・海外研修参加支援プログラム	支援対象として採用された本学内組織主催又は共催による海外研修プログラムに参加する学生を対象に旅費の一部を支援
オンライン形式による経費補助金	オンライン形式を活用した活用した国際的な教育・交流プログラム参加する学生を対象に経費の一部を支援

バスケットボール部

コロナによって延期となった『TSUKUBA LIVE!』が1年越しに開催された。

さすがは全日本上位常連の筑波大バスケット部である。会場には多くの人が詰めかけ、チアによる応援やハーフタイムショーはとても盛り上がっていた。

試合は男女とも相手のディフェンスに苦しまれ敗戦となってしまったものの、自分と同年代とは思えない迫力あるプレーには思わず声が出てしまうほどだった。

会場：つくばカピオ

対戦相手：【男子】東海大学

【女子】白鷗大学

(取材／体育会執行委員会広報局長 廣瀬健大・地球学類3年)



試合と応援の様子 2023年3月22日撮影

ケガや急病、こころの問題は保健管理センターへ



保健管理センターでは、学生に対する応急診療や精神保健相談を行っています。利用には学生証が必要です。診療料金は一般の医療機関の半額程度となります。例：かぜ800円、ねんざ1,300円、精神科診療2,000円

・応急診療(内科・整形外科)

けがや病気に行う診療(初診のみ)です。診療受付時間に直接お越しください。

・精神保健相談(精神科)

メンタルヘルスを対象とし精神科医が相談・治療に応じます。予約制となりますので精神科受付までご連絡ください。

・詳細は保健管理センターのHPをご覧ください。

<https://www.hokekan.tsukuba.ac.jp/>

【総合受付:029-853-2410/精神科受付:029-853-2411】



学生の保護者の皆様へ

正体を隠した悪質な宗教団体の勧誘被害を防ぐために

学生部学生生活課

【**本学での宗教団体の活動実態**】

学生サークル等になりすまして勧誘している宗教団体は、大学周辺のアパート、マンション等の一室や一軒家を借りて活動の本拠地にしています。上級生に言葉巧みに勧誘された新入生は、徐々にマインドコントロールにかかっていきます。ようやく宗教団体であることを告げられる頃には、マインドコントロールも終わり上級生との信頼関係も構築され活動を続けてしまうようです。2年生になると、今度は自らが新入生を勧誘する側になります。

本学では、勧誘を受けた学生や途中で脱会した学生などから多くの情報を得ておりますが、ある宗教団体では、Web上に「新入生の生活相談」等のブログを作るなど、巧妙な勧誘を続け、新入生を勧誘していることが確認されています。

【**本学における宗教活動の制限**】

一般生活上においては、思想・信条の尊重（信仰の自由）・自治的活動（結社活動や意見表明の自由）を理由なく制限することはできませんが、本学では、『国立大学法人筑波大学学生の活動に関する法人規程』において、学内における特定の政党を支持する政治活動や特定の宗教のための宗教活動を禁止しています。その大きな理由は次の3つの理由からです。

①サークル活動であれ、宗教活動であれ、学生の本分である学業を圧迫するのは問題です。宗教団体は、学生に勧誘や献金のノルマを課します。授業時間以外は、朝から夕方までキャンパス内で勧誘を行ったり、夜はアパート等への訪問伝道を行ったり、集会参加の旅費や献金のために膨大な時間をアルバイトに費やしたりすることにもなります。

②正体や活動目的を隠し、マインドコントロールを駆使して勧誘を行う団体は、それ自体が個人の自由な意思決定を阻害しているといえます。また、そのような勧誘行為を行う学生も、かつては十分な情報や適切な説明を受けずに入信した被害者であり、勧誘する者、される者とも早期の対応が必要となります。

③大学教育、特に1年次、2年次においては、学生の柔軟で自律的な思考能力を涵養することが大きな教育目標です。したがって、この時期に特定の宗教的信条や人生観のみを教え込み、学生の視野と活動を一定の範囲に囲い込むことは教育上問題です。学生自身が自ら選択した結果だとしても、リベラルアーツの考え方や自分が自分らしく生きるといった現代的理念から考えると大いに問題があると言えます。

【**新入生や就活生がターゲット?**】

毎年、入学式後のサークル勧誘時期には「学生サークル」、学生生活に慣れてくると「ゼミや勉強会」、就職活動の時期になると「就活相談」などと称して、宗教団体が正体を隠し、親切・丁寧な声掛けで勧誘活動を行っています。いったん参加してしまうとマインドコントロールが進み入会（入信）に至り、自分の意志で脱会することが難しい団体が多いようです。

正体を隠して悪質な勧誘を行う宗教団体は、右も左も分からない新入生や就活に悩みを抱える学生をターゲットに、一見宗教団体と分からないような巧妙な手口で勧誘を行ってきます。「私はそんな変なことにだまされるはずがない」と思っている人ほど要注意です。

本学においては、授業（ファーストイヤーセミナー）や各種配布物、ポスターを通じて注意喚起するなど、その対策に取り組んでいますが、勧誘される側の学生に危機感がないことから、被害に遭う学生が後を絶たない状況です。

【**勧誘事例**】

事例1

学食で福祉サークルを名乗る先輩から勧誘を受け、一度参加した際に優しく迎え入れられた。その後は、毎日電話が来るようになり、風邪をひいて休んだ時には手紙をもらい、感激した。4月後半に1泊2日の合宿に誘われて参加した時に、宗教らしい内容の講義があったため、先輩に「宗教団体ですか?」と尋ねたが、「違うよ。自分を高めるための勉強だよ。」と言われた。しかし、違和感を払拭できず、クラス担任に相談したところ、学生生活課へ相談するよう勧められ、その後、自ら辞める決意をした。

事例2

学内を歩いていた時に、2年生から「人生の目的を考えるサークル」に誘われた。一度は断ったものの、自分の連絡先を教えてしまい、何度も誘われたため参加することにした。毎日、大学の外にあるマンションの1室に通い、「人生の目的」について先輩からの話を聴いた。5月には、「新勧合宿」に誘われ、「仏教に説かれている絶対の幸福」について話をされ、徐々に仏教系の「宗教」であることを告げられるが、優しくしてくれた先輩方を裏切れない気持ちで、そのまま宗教団体に入ってしまった。2年生になるときには、新入生を勧誘する側となってしまった。

【**最後に**】

これまで、信仰の自由を尊重するということから、宗教等の勧誘に対し大学がきちんと対応することが難しい面は確かにありました。しかし、筑波大生として受入れた以上、学生が悪質な勧誘を行う宗教団体の被害に遭うことのないよう、大学が予防に尽力すべきだということは言うまでもありません。これらの宗教団体の活動について、予防教育や情報を提供し被害を最小限にとどめることは大学の重大な責務です。

本学では新入生向けの冊子（セーフティライフ*¹）等で悪質な勧誘を行う宗教団体に関して再三注意を呼び掛けていますが、巧妙な手口により被害に遭う学生が少なくありません。さらに、令和4年4月からの成年年齢引き下げに伴い、保護者の力が及ばなくなったため、宗教団体の標的になることが懸念されます。

信者になった学生は、家族、友人、先生からの忠告を一切受け入れられなくなってしまい、宗教団体の教えの下に行動し、そして、勧誘する側になってしまいます。

保護者の皆様におかれましては、お子様の帰省や電話等での連絡の際に、不審な勧誘に騙されないように注意を促すとともに、このようなことで困ったときには、直ちに大学の総合相談窓口や学生部学生生活課に相談してください。

※この記事は、個人の信仰を批判するものではなく、正体を隠した悪質な勧誘に騙されないよう注意を促すものです。

セーフティライフ*¹
<https://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/support-support/>

○総合相談窓口	029-853-8430
○学生部学生生活課	029-853-6092,2245,2246

紫峰会基金に寄附して下さった皆さまへ

新型コロナウイルス感染症対策対処中にもかかわらず、多くのご寄付をいただきありがとうございます。皆さまからいただいたご寄付の全額を課外活動団体援助金等として使用させていただいております。援助金のおかげで活動にかかる負担が減り、学業や課外活動をより充実させることができました。現在多くの課外活動団体は、コロナ禍以前の活気を取り戻しつつありますが、予断を許さない状況は続いています。今後も感染対策の徹底と注意喚起を講じながら精一杯活動に取り組んで参りますので、今後も変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

課外活動団体一同

就職特集

筑波大学のキャリア形成・就職支援

ヒューマンエンパワーメント推進局キャリア支援チーム

砂道の上をガタガタと走る1台の馬車。馬車の通った後には車輪の軌跡が残っています。ラテン語ではcarrariaと記される「轍」、これが私たちの使っている「キャリア（career）」という言葉の語源です。

日本では以前、この言葉はキャリア官僚・キャリアウーマンなどといった形で用いられ、エリート意識や熱意と結びついていました。しかしながら、様々な出来事を通して動き方の多様さに社会的な意識が向けられるようになり、キャリアという単語の意味の捉え直しが始まります。その結果、職務経歴・仕事・役割だけでなく、自由時間・関連学習・家族や地域における活動を通して形作られていく「個々人の生涯にわたる生き方（ライフスタイル）のプロセス」として「キャリア」を定義するのが一般的になりました。ヒューマンエンパワーメント推進局（以下、BHE）キャリア支援チームでは、こうした中長期的なキャリア概念に基づき、自分の人生を自分らしく形成していくための支援を行っています。

具体的には、本学オリジナルのポートフォリオである「つくばキャリアポートフォリオ（愛称：CARIO）」の提供や、学群1年生を対象とした学士基盤科目「キャリアデザイン入門～世界にはばたく未来の自分～」を始めとするキャリア関連授業を開講するほか、各種セミナー・実践対策講座など、多岐にわたる支援プログラムを提供しています。そのなかでも「個別キャリア相談」と「博士・ポストドク支援」には特に注力し、個々人の車輪が回っていくのに必要な「自己理解／社会理解」を進めるアイデアと場を提供することに努めています。学群生から大学院進学、そして博士後期課程修了までを担う幅広いフォロー体制が、弊チームによる支援の特色であると言えます。

就職環境に関しては、新型コロナウイルス感染症の流行という未曾有の事態に遭い、就職活動の形態やスケジュールに大きな変

化が生じました。加えて、選考活動の早期化が喧伝されることもあり、就職活動に向き合う学生の不安がかき立てられるといった事態も起きています。優秀な学生を採用するために、インターンシップなどを通して企業が早い段階から動き出すことはあります。しかしながら弊チームは、個別相談などを通して学生に慌てず自己／社会理解を進めるよう伝えています。これらを疎かにすると就職上のミスマッチが起きやすくなり、企業と新入社員の両者が望まない結果をもたらす場合があるためです。

最後になりますが、「就職」「内定」はゴールではありません。むしろ、私たちが既にして置かれているこの社会に根差し、社会の抱える様々な課題を、たとえばある企業での働きを通して解決していく――そのような人生のスタートなのです。誰もがより良く・自分らしく働ける基盤を構築するために、個別相談や合同企業説明会のオンライン化などといった社会情勢への対応は逐次進めつつ、引き続き中長期的な視点でのキャリア形成支援を実施して参ります。



新型コロナウイルス感染症予防対策を行いながら開講した、対面によるキャリア教育授業の様子（2022年夏撮影）

若手研究者のためのwebサロンシステム

PhD×FUTURE.

ピーエイチディーフューチャー

キャリア支援チームによる博士・ポストドクターキャリア支援の中核を担っているのが「PhD×FUTURE.」というマッチングシステムです。

本学の博士後期課程学生と、若手研究者を積極的に活用したい企業・団体が出会い、関わりを深めていくなかで、新たな価値を創出することに主眼を置いています。実際、人文系学生とデジタルコンサルタント企業のインターンシップが実施中です！

2023年3月10日時点で305名の学生と62企業・団体の登録があります。本システムを通して、次世代社会における若手研究者の活躍の場がより一層拡がることを目指します。

新入生あるある 人間系 教授 杉江 征



新入生の保護者の皆様、お子さまのご様子はいかがでしょうか？実家から通われている方も、実家を離れてつくばで一人暮らしを始められた方も、みな、期待と不安を胸に抱きながら大学生としての新しい生活を迎えているのではと思います。

今回は、新入生の方々によくみられる様子を「新入生あるある」としていくつかご紹介させていただきます。

1. 知らず知らずのうちに緊張している

新入生は、生活環境や学習環境、居場所、人間関係などすべてが新しく、それに慣れることが求められます。新しい環境で上手くやろうと頑張って、みなけっこう、消耗しています。ただ、気が張りつめたままで、自分が疲れていることに気づいていないことも多いようです。5月の連休で、実家に帰ったり、宿舎やアパートでのんびりしたり、高校時代の友達と会ったりして、やっと緩むことができそうです。そのせいか、5月の連休明けは、大学の雰囲気も全体的に少し落ち着いてくるような印象があります。

2. 周りの人が優秀にみえる

大学には、全国から、個性豊かな学生たちが集まってきています。自分の周りの学生には、元気ではきはきしている方もいれば、物静かにじっくりと考えているように見える方もいて、自分以外の

人が「みんなできる人」のように思ってしまうがちです。それゆえ、劣等感を抱きやすくなっています。

3. 変な勧誘を受ける

カルトの勧誘を受けることも少なくありません。最近の勧誘は、「朝、身体を動かすサークルをやっているから、一緒にどうですか」とか「SDGsの勉強会をやりますので参加してみませんか」などなど、一見、カルトとはわからない誘い方をします。知らない人から声をかけられても連絡先などは教えない方が安全です。こちらの連絡先を教えるのではなく、相手の連絡先を伺って、検討してから連絡しますというその場を離れるようにするとよいです。

その他、「4. 高校までのような自分の教室がないので落ち着かない」とか「5. どうふるまったらよいかわからないので、とりあえず他の人と同じようにしている」、「6. まだ友達と呼べるほどの友達もできてない。何となく不安」、「7. 昼間は平気だけど、夜になるとちょっと寂しい。街灯が少ない。夜、街が暗い!」、「8. 食事のレパートリーが尽きてきた。洗濯物もたまってきている。家事が億劫!」、「9. 新歓続きで疲れている」、「10. 授業中、どうしても寝てしまう!」、「11. 思っていた学生生活と何か違う気がする」、「12. 気がつくといろんなこと勉強していない!!」など、まだまだあります。

5月の連休にお子さまが帰省されたら、4月の頑張りを労って、疲れを癒してあげてください。ぜひ、どんな「あるある」を体験していたか話を聴いてみてください。そして、何か心配な様子がありましたら、総合相談窓口にご相談いただければと存じます。

桐の葉日記

4月に入りつくばは、少し肌寒い日もありますが春の陽気を取り戻しつつあります。

私が入学してから早くも2年が経ち、やっと今まであった日常を取り戻しつつある中で、勉強に部活と忙しさは増していく一方です。

そんな中、本年度からはこの『紫峰の風』の企画・編集にも携わせていただくこととなりました。同じ学類の人たちと同じ授業を受け、それが終わればいつもと同じメンバーで部活をするといった日常を過ごしてきた私にとって、他の学類や団体がどのような学生生活を送っているのかを知るきっかけとなっています。

これまで狭い世界で生きてきた自分にとって、この経験はかけがえのないものになるのではないかと考えています。高校などのこれまでの学生生活とは異なり様々な年代の人が在籍している大学で、学生主体となって活動している人々がどのような考え方をしているのかを知ることは、私自身が今後そのような活動をしていく場面でもとても参考になるかと思っています。

ぜひ皆様にも『紫峰の風』を手にとって筑波大生がどのような大学生活を送っているのかをご覧くださいと思います。

最後になりましたが、今年度も『紫峰の風』をどうぞよろしくお願いたします。

(文責／体育会広報局長 廣瀬健大・地球学類3年)

大学の風景



桜に見守られた卒業式

紫峰ギャラリー

こちらのコーナーでは、課外活動団体の日々の活動を写真を通して紹介しています。今回は体育会医学部会より、医学アイスホッケー部と医学剣道部の試合の様子です。昨年度は部活動によっては、東日本医科学生総合体育大会も開催され、各団体全力で普段の練習の成果を発揮していました。

医学剣道部

第26回秋季関東医科系大学
女子剣道大会 優勝
試合の様子



医学アイスホッケー部

2022年東日本医科学生
総合体育大会 優勝
試合の様子



第1期分授業料納付期日のお知らせ

2023年度第1期分授業料の納付期日が以下の通りとなります。口座振替の登録をされている方は5月26日(金)までに登録口座へご入金ください。口座を登録していない方へは5月中旬頃に払込取扱票をお送りいたしますので、期限までにお支払いください。

なお、授業料免除・猶予申請中の方は対象外となります。

金 額 267,900円(ただし、法曹専攻は402,000円)

引落日 5月29日(月) 納付期限 5月31日(水)

■お問い合わせ 財務管理課出納担当(収入)029-853-2161

LINE 筑波大学通信
公式アカウント
在学生の保護者向けの情報をお届け！
友だち→友だち追加→QRコードを選択し、カメラで右のQRコードを読み込む

筑波大学紫峰会基金WEBサイト
<https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/shihokai/>



紫峰の風送付先変更の連絡はこちら
E-mail: renkei@un.tsukuba.ac.jp 電話: 029-853-2030
本号について、ご意見・ご感想をお寄せ下さい。

紫峰の風 第28号 2023年4月発行
発行 事業開発推進室
編集 学生部学生生活課
学生広報会議
(高橋愛果・比文2年、高田梨々子・創成2年、相楽駿・社工2年、山本彩佳・障害2年、長沼正樹・エシス4年、中村恭輔・人文2年、廣瀬健大・地球3年、斉藤圭祐・医学2年)
学生広報部会
(河原井かれん・人間総合群芸術P2年、高見沢仙美・数物群マテリアルP2年、小林桃子・比文4年、佐藤祐人・人文4年)
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
電話: 029-853-5886 E-mail: gk.shihokai@un.tsukuba.ac.jp

大学生生活のすゝめ ～後輩に伝えたい僕・私の知恵袋～

1年生および保護者の皆様、この度はご入学おめでとうございます。春の訪れとともに、待ちに待った大学生活がいよいよ始まろうとしています。新生活に心躍らせる半面、慣れない環境に不安を感じる人も多いのではないのでしょうか。そんな心配事を少しでもなくせるよう、今回は先輩に生活の知恵を聞きました。

住めば都、工夫すれば浄土 学生宿舎の知恵袋

学生宿舎とは大学構内の一の矢地区、平砂地区、追越地区、春日地区にそれぞれ設置された学生用の建物になります。友人が作りやすかったり、アパートに比べて光熱費や家賃を抑えられたり、教室への移動が楽だったりとメリットが多く存在します。

一方で、シャワーやキッチン、トイレなどはどの宿舎でも入居者で共有する形になっており、部屋の大きさもアパートに比べると小さいので生活の上で様々な工夫が必要になってきます。

そこで、実際春日宿舎に住んでいた経験からライフハックを紹介したいと思います。

知恵 ①

① つっぱり棒

ベランダのない宿舎に住んでいる場合や、雨の日などに重宝するのがつっぱり棒です。部屋の端に設置することでスペースも取らないので○

太くてしっかり固定できるものにしないと寝てる間に落ちてくるので注意！

② スチールラック

床面積は小さい宿舎ですが、高さはまあまがあります。なのでより多くの物を収納したい時は高さのあるラックがオススメ！

ここには主に調理道具、お風呂用品などありとあらゆる生活用品を置いています。よく使うものを置いておくことですぐに手に取れて便利です。

③ シューズラック

宿舎によって異なりますが、靴箱の無い宿舎やある宿舎でもスペースが限られていて入りきらない人も多いです。その場合、靴は部屋に持ち込む必要があります。

シューズラックを用意しておくことで汚れを気にすることが無いので持っておいて欲しいものの1つです！

積み重ねられるタイプにしておくことでスペースの削減にも繋がります！

先輩が入居前に疑問に思ったことQ&A

自炊事情

自炊する人は補食室という流し台やコンロの置いてある共用スペースで料理ができます。

しかし、スペースにも限りがあるので、自室にIHなどを用意してあるとちょっとした料理に役立ちます！自炊しない人も冷蔵庫と電子レンジは必須！！レンタル屋さんなどで借りることもできます。

お風呂事情

お風呂は共用の大浴場のある宿舎もありますが基本コインシャワーを利用します。1回100円で時間制限は9分です。

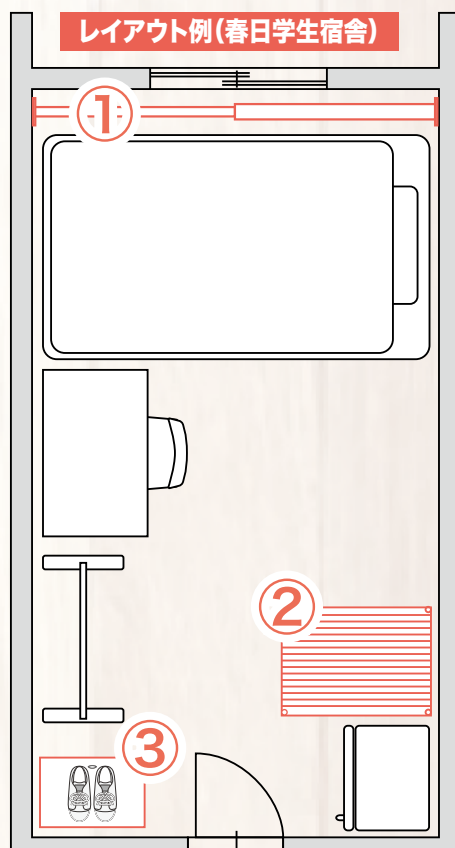
短いようにも思いますが出ている間のみのカウントなので結構余裕あり○

お風呂セットをカゴなどに入れて準備しておくことで毎日シャワーへ行くのがスムーズです。

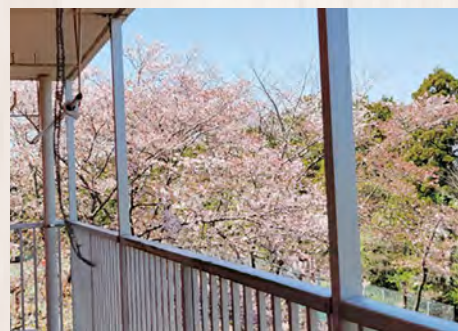
洗濯事情

洗濯はシャワー同様1回100円で利用できます。100円玉が生活の中で必須になるので宿舎に住む人は100円玉を集めておきましょう。

また、シーツ類はありがたいことに2週間に1度交換してもらえるので基本洗濯の必要はありません！



▲入居直後の宿舎の様子



▲宿舎のベランダからの風景

悠々自適!? アパート暮らしの知恵袋

アパート生活を経験した学生の声をもとに知恵袋をまとめました。

知恵 ②

「用意しておくといもの」

洋服ハンガー

(最も「あればあるほど楽」という声が聞かれました)

電気毛布

(つくばの冬は冷え込みます)

踏み台

(電灯の交換などに大活躍)

食器用水切りラック

(アパートに備え付けのものでは小さい)



「実はいらなかったものと代用策」

掃除機

(騒音、電気代が気になってしまう)

プリンター

フローリングワイパー

(気軽に掃除ができる)

全学計算機システム

(大学の図書館内のパソコンでこのシステムにログインすると、無料でプリントアウトができる)

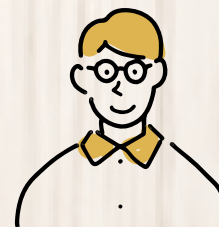
通称「宅通」 自宅通学の知恵袋

自炊や掃除、洗濯といった家事をすべて自分でしなければならない一人暮らしとは違い、自宅通学は楽だと思える人も多いかと思いますが、実際はどうなのでしょう。2名の自宅通学をしている学生に聞いてみました。

知恵 ③

「私は都内からつくばエクスプレスを利用して通学しています。定期乗車券はほとんどの人が購入すると思いますが、持っておくと安さ以上のメリットがあります。それはつくばへ遊びにいきやすくなることです。筑波大学は下宿する人がほとんどなので、自宅通学の人は交友関係を作りにくいという難点があります。しかし、定期券があれば、大学がない日でも金銭的な心配なしにつくば在住の友人と会うことができます。また、つくば駅と大学間や大学内を移動するために自転車は必須です。」

(K・K・応用理工学類2年)



「私は自動車で40kmの距離を通学しています。自動車通学者にとっての最難関は通勤ラッシュ時の渋滞です。特に大学付近は様々な教育機関やオフィスが立ち並ぶためとても混雑します。最低でも30分は余裕をもって自宅を出発することをお勧めします。また、自動車に欠かすことのできないガソリンですが、県外はもちろん茨城県内でも価格差が存在します。余裕をもって安い地域で給油しておくように心がけ、高額なガソリンスタンドに駆け込んでしまうことのないようにしましょう。」

(K・T・生物学類2年)

芸術系サークル連合会活動紹介

芸サ連紹介

筑波大学芸術系サークル連合会（以下、芸サ連）第47期運営委員長を務めている医学群医療科学類の山崎健汰と申します。常日頃からの芸サ連への手厚い支援や温かいご声援に心から感謝致します。



コロナ禍が始まってから約3年が経過し、一歩ずつ前の生活へと戻り始めています。その変化は、サークル活動に置いても例外ではありません。今まで1人1人離れていた距離は近くなり、より大人数での活動も可能になっています。それでもやはり、約3年間のコロナ禍は学生生活に大きな変化をもたらしました。コロナ禍以前からの伝統を引き継ぐ事が出来ずに途切れてしまう、などと言った様々な問題が散見しています。おそらく、それらの問題を解決するのは容易ではありません。完全にコロナ禍以前の状態に戻す事は不可能だと考えられます。そのような状況においても、限られた時間の中活動に精一杯励んでいる学生達が存在します。これからも、多くの学生が悔いのない活動が出来るよう私達も尽力して行きます。今後とも芸サ連へのご協力をよろしくお願い致します。

（寄稿／第47期芸術系サークル連合会運営委員長
山崎健汰・医療科学類3年）

アカペラサークルDoo-Wop



冬ライブでの演奏の様子 2023年2月26日撮影

アカペラサークルDoo-Wopでは、楽器を使用せずに人の声だけで演奏する「アカペラ」をしています。総勢120人のサークル構成員が自由にバンドを組み、年間を通して行われるサークル内のライブや、雙峰祭・やどかり祭といった学校行事への出演、学外で開催されるアカペライベントへの参加など幅広く活動しています。

先日つくばピオホールにて開催された一年間のサークル活動の集大成である冬ライブは、テーマである「Aurora」のように今後のサークル活動の夜明けとなる素晴らしい演奏をお届けしました。これからもDoo-Wopらしく私達らしく、良質な音楽を追求していきますので、今後の活躍にぜひご期待ください。

（寄稿／アカペラサークルDoo-Wop代表
伊東遥伽・比較文化学類3年）

E.L.L. (筑波軽音楽協会)



大学内の定期ライブの様子 2022年12月18日撮影

私達E.L.L.（筑波軽音楽協会）は、筑波大学に5つほど存在する軽音楽サークルの内の1つです。サークル名の由来は、アメリカの伝説的なギタリスト、Jimi Hendrix によるアルバム『Electric Ladyland』が由来となっていますが、このサークルではそのような音楽だけでなく、洋邦問わない様々なジャンルの音楽が主にコピーバンドの形式で鳴らされています。

毎週水曜日に行われるミーティングと、毎月1回ほど行われる大学内での定期ライブが主な活動内容となります。新歓期や雙峰祭など学外の方々の前でライブを行う機会も多いので、是非お試しください。

（寄稿／E.L.L.（筑波軽音楽協会）代表
東中耀滋・知歳情報・図書館学類3年）

筑波大学ジャズ楽団Neopolis BIGBAND



山野ビッグバンドジャズコンテストでの演奏 2022年8月17日撮影

私達筑波大学ジャズ楽団Neopolis BIGBANDは、ジャズの中でも特に大人数で演奏するビッグバンドジャズを演奏している団体です。華やかなスイングジャズや落ち着いた雰囲気ジャズバラードなど、様々な楽曲を演奏しています。またNeopolis にはボーカリストが所属していることも特徴的です。2022年度は多くのイベントで演奏させて頂いたり、全国大会である山野ビッグバンドジャズコンテストにも出場しチアアップ賞を受賞しました。また、2月には第6回目となるリサイタルをノバホールで開催し精力的に活動しています。

2023年も沢山の方にNeopolisの音楽をお届けしていきますので、ぜひ足を運んで応援して頂けますと幸いです！

（寄稿／筑波大学ジャズ楽団Neopolis BIGBAND代表
中元花夏・心理学類3年）

体育会活動紹介

体育会執行委員会紹介

はじめまして。第47代筑波大学体育会執行委員会委員長を務めております横山大起と申します。日頃より体育会へ様々なご支援やご声援を頂きありがとうございます。



私は新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、マスクなどの感染対策をしてなんとか入学式や一部のオリエンテーションを対面で行うことができた学生です。思うようにキャンパスに通えず、大学で友人を作る機会もとても少なかった中、所属している部活を通じて体育会執行委員会を知り、委員を務めさせて頂くことになりました。2年目になって委員長も務めることとなり、とても貴重な経験をさせて頂いております。

私は、体育会執行委員会に入り、改めて筑波大学の体育会の凄さを感じています。競技の幅の広さ、レベルの高さはもちろんのこと、代々の先輩方が築き上げてくださったこの「体育会」という組織の素晴らしさを実感し、同時にこれを絶やしてはならないという責任も強く感じています。第47代の委員長として、また一筑波大生として、有意義な時間を過ごせるよう日々精進していきます。今後とも体育会への変わらぬご声援の程よろしくお願い致します。

（寄稿／体育会執行委員会委員長 横山大起・物理学類3年）

体操部



1月末に開催された「つくば体操フェスティバル」 2023年2月3日撮影

筑波大学体操部は徒手体操や組体操などの身体一つで動く体操、Gボールやラートなどの器具を用いた体操、フープや体操ボール、縄などの手具を用いた体操、さらには自分達で新たな手具を探したり動きを考えだしたりしていく発想力を重視した体操を行っています。また学内外において様々な発表会やパフォーマンスに参加し、私達ならではの体操を発信しています。他人と技を競い合うのではなく「自分と仲間の体と向き合い、人間らしく心地よく動く」ということを大切にして活動しています。このような体操は一般体操と呼ばれ生涯に渡り続けられるスポーツとなっています。

（寄稿／体操部主務 黒澤瑤季・体育専門学群3年）

男子アイスホッケー部



試合前の円陣 2022年11月撮影

部員は様々な学群・学類に所属しており、スポーツ遍歴も様々でほぼ全員が大学から始めています。初めはスケートもままならないところからスタートしますが、氷上・陸上トレーニングを行うことで、未経験者中心の最高位リーグ・関東2部リーグに所属するまでの実力をつけています。活動は営業終了後のリンクを貸し切って行うため夜遅くにはなりますが、1回につき90分という限られた時間で充実した氷上練習を行っています。現在は氷上練習はもちろんのこと、陸上トレーニングや氷上練習をビデオを通して細かく分析するミーティングなどを通して部のレベルアップを図っています。

（寄稿／男子アイスホッケー部広報 石寄新之助・地球学類3年）

女子サッカー部



昨年の皇后杯出場時の様子 2022年11月26日撮影

女子サッカー部には初心者から代表レベルの選手まで、様々なレベルの選手が所属しています。その中でもレベルの差や学年の垣根なく、サッカーのことやそれ以外のことまでたくさん話をしてお互いを知ろうとする雰囲気がある部活です。

“魅力あるチーム”“輝ける人”というビジョンを頂点とし、「女サカの三角形」を軸にオンザピッチ、オフザピッチともに活動しています。2023シーズンは仲間を想い、全員で高みを目指すという意味を込めた「翔仁」をスローガンとして掲げます。

（寄稿／女子サッカー部主務 河部真依・体育専門学群4年）

全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議活動紹介

新入生の皆様、筑波大学へのご入学誠にありがとうございます。ご家族、保護者の皆様におかれましてはこの度は大変おめでとうございます。わたくしは、令和4年度全学学群・専門学群・総合学域群代表者会議（以下、全代会）議長を務めておりました、人文学類3年の河野美羽と申します。

本紹介文においては、わたくしが議長を務めておりました全代会について記させていただきます。全代会とは「学生の権利・利益を守ること」を目的として、各学類・専門学群・総合学域群より選出された代表者によって組織され、筑波大学に所属する学生と共に、よりよい大学を創る為に日々活動をしている組織です。

全代会では、様々な活動を通して集められた学生の意見を基

に、副学長や、多くの大学職員の方との意見交換を行いながら学生の要望を叶えるため日々活動をしています。これからも全代会では大学生活を豊かにし、より彩のあるものにする為、引き続き努力をして参りますので、新入生の皆様の大学生活を彩る選択肢となれば幸いです。また、保護者の皆様におかれましては、今後とも全代会の活躍を温かく見守って頂けると幸いです。

（寄稿／全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議議長
河野美羽・人文学類3年）



国際特別委員会

国際特別委員会は、令和4年7月に、留学生の抱える問題の解決、全代会の国際化などを目的として設立されました。現状、留学生がサークル等への参加が困難という問題があり、その解決のため秋のサークル新歓祭「Tsuku・Koi」を開催しました。約20団体が留学生に向けサークル紹介を行い、約300人の留学生が参加しました。このイベントを通じて、留学生が

サークルを知り加入するきっかけとすることができました。令和5年度は参加サークルと参加留学生の数を増やし、イベントをより活気のあるものにしていきたいです。また今後は留学生が主役のイベント「International Day」の開催にも力を入れていきたいと考えています。

（寄稿／国際特別委員会委員長 山口毅人・応用理工学類3年）

学内行事委員会

学内行事委員会は下部組織である大学内の学生組織と大学との連携を図っています。主な活動内容としては学園祭実行委員会、スポーツ・デー学生委員、サークル連合の監督や実行計画書・予算案の監査、学生組織の会議主催を行っています。監査に関しては体裁面だけではなく学生組織を監督する立場として新型コロナウイルス感染対策に関して助言を行い、大学側との認識の差異が生じた場合には学生組織に指摘するなどの対応を

としています。

令和5年度学内行事委員会としては学生組織に所属する学生以外とも関わる機会を増やしていきたいと考えています。全代会をより学生に近い組織に育てていきたいです！

（寄稿／全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議
学内行事委員会委員長 竹之内美来・化学類2年）



作業の様子



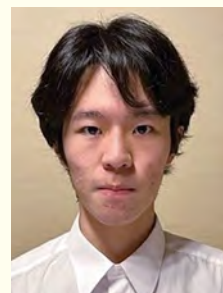
全代会室の様子

文化系サークル連合会活動紹介

文サ連紹介

こんにちは。第48期文化系サークル連合会（以下、文サ連）の運営委員長の時長隆乃介と申します。筑波大学にはたくさんのサークルや団体がありますが、大学公認のものは次の二つに分類されます。「一般学生団体」と「課外活動団体」です。課外活動団体は、三系（文サ連・芸サ連・体育会）のいずれかに属しています。各系が課外活動団体と大学の橋渡し役となることで、大学側には団体への連絡の負担が減るメリット、所属する団体には紫峰会基金から援助金を貰えるほか施設を一般学生団体より優先的に利用できるメリットがあります。系を通すことで団体からの意見や要望を聞き入れてもらいやすいというのも利点です。三系のうち、文サ連は文化系の課外活動団体が属するサークル連合会です。約30団体が属しており、サブカルチャーはもちろん、日本伝統文化や、社会福祉に携われるものまで、文化系といっても実に様々な団体があります。感染症対策のため近年は活動が制限されてきましたが、今年度からは規制の緩和が予想されるため、大学に活気を取り戻せるよう、文サ連として尽力していきたい所存です。

（寄稿／第48期文化系サークル連合会運営委員長
時長隆乃介・物理学類2年）



映画研究部



上映の様子 2023年1月10日撮影

私達映画研究部は、毎週火曜日、金曜日に第二エリアの2A棟にてプロジェクターを用い映画鑑賞を主に行ったり、頻度は少ないですが、有志で実際に映画館に行って映画を見たりもしています。鑑賞する映画については、部員による投票で決めています。映画の種類については、マニアックな映画から、誰もが知っている有名な映画までジャンルを問わず幅広く見ることができます。そのため、様々な分野の映画の知識を蓄えることができます。現在は活動がストップしていますが、映画のレビューの投稿や機関誌の発行、雙峰祭での出店も行っていました。

（寄稿／映画研究部副部長 相楽駿・社会工学類2年）

歌留多部



鎌倉・円覚寺にて 2021年11月26日撮影

歌留多部は競技かるたの大会に出場することを目的として、毎週火・木・日曜日に練習を行っています。練習はアットホームな雰囲気、自分の都合に合わせて自由に参加できます。また春・夏には千葉で合宿を、冬には東北大学との合同練習を行っており、かるたを通じた他大学との交流も盛んです。

競技かるたは難しいというイメージを持つ人も多いと思いますが、実際には大学から始める人がほとんどです。確かに百人一首を暗記するのは大変ですが、一度覚えてしまえば自分の体1つで楽しめるとても魅力的な競技です。普段の練習では初心者の方も楽しめるように、かるたのルールや戦略について指導を行っています。

（寄稿／歌留多部部長 小橋剛真・医学類3年）

つくば鳥人間の会



雙峰祭で展示した機体 2022年11月5日撮影

筑波大学つくば鳥人間の会は、人間の力のみで飛ぶ人力飛行機の製作及び毎年夏に琵琶湖で開催される鳥人間コンテストへの出場を目的とするサークルです。全幅30mの巨大な人力飛行機を数十人が協力して手作業で作ります。夏休みから翌年の4月ごろまで機体を製作し、5月から7月にかけて近くの飛行場で試験飛行をして7月末の鳥人間コンテストに臨みます。鳥人間コンテストでは今までに準優勝3回、3位入賞4回を経験し、あとは優勝を残すのみです。今年の機体も完成間近となりました。会員一同、悲願の初優勝を目指して邁進していこうと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。

（寄稿／つくば鳥人間の会代表
水田遼太郎・工学システム学類4年）

医学部会紹介

医学部会執行委員会紹介

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから始まる大学生活に大きな期待と不安を抱いていることと思います。この先皆さんは多くの仲間と出会い、様々なことを経験していくでしょう。楽しいこともあれば、つらいこともあると思います。しかし、そういった経験はあなたを成長させ、あなたの大学生活を豊かにしてくれるに違



いありません。そんな大学生活を部活動という面から支えているのが体育会執行委員会です。この体育会執行委員会の下に設置されているのが医学部会執行委員会であり、医学部会に所属している課外活動団体の運営が円滑に行われるようサポートしています。構成員は、委員長、副委員長、広報局長、総務局長、会計局長、財務局長、書記局長の計7名です。資料作成や支出管理など、様々な仕事を各局が分担して行っています。

昨年度からはコロナウイルス関連の規制も段々と緩和され、活動団体によっては練習の再開や大会への参加なども可能になりました。今後コロナウイルスが医学部会の活動にどのような影響を与えるかは分かりかねますが、皆さんが円滑に活動できるように委員一同、最善を尽くしますので今後ともよろしくお願いいたします。

(寄稿／医学部会執行委員会委員長 萩原陸渡・医学類2年)

医学アイスホッケー部



2022年東日本医科学生総合体育大会 2022年12月25日撮影

医学アイスホッケー部は現在プレーヤー14人、マネージャー6人の総勢20人で活動しています。主に火曜、木曜の週2回氷上練習しています。それに加え体育会所属の男子アイスホッケー部や女子アイスホッケー部の練習に参加したり、陸上トレーニングやウエイトトレーニングなどを行ったりしてチーム力向上を目指し活動しています。

当部活はプレーヤーとマネージャー、そして学年の垣根を越え仲が良いところが特徴の一つです。また遊ぶ時は全力で遊び、氷上では真剣に練習するメリハリある活動を心掛けています。昨年は過去2年間開催できなかった東日本医科学生総合体育大会（以下、東医体）が開催され、コロナ禍での工夫した練習が実を結び全勝優勝を果たすことができました。今年も東医体3連覇を目標に部員一同精進していきますので応援よろしくお願いします。

(寄稿／医学アイスホッケー部部長 鈴木涼・医学類5年)

文サ連企画記事「福祉」

筑波大学には様々な団体がありますが、今回はその中でも「福祉」に関わりを持つ2団体をピックアップし、

- ① 団体内の雰囲気 ② 団体のアピールポイント ③ 活動におけるやりがい
という質問をしました。

手話サークル

- ①手話を学び始めたばかりの初心者から日常的に手話を使っている人まで、幅広くサークルに所属しています。講義形式で勉強するのではなく、企画や会話の中で手話を学ぶことができ、皆で楽しみながら手話を使い、学んでいます。
- ②サークルに入って初めて手話を学ぶ、という人が多いため、初心者向けの活動内容が豊富です。また、定期的におしゃべり会を開催しており、会話を楽しみながら自分の手話を磨いています。勉強方法を自分で選ぶことが可能です。
- ③手話初心者は最初、自分の言いたいことを伝えることが難しいです。ですが、サークルで手話を学び、自分の言いたいことが伝わるようになり、会話が長く続くようになります。自分の手話が上達したと感じるとき、特にやりがいを感じます。

(寄稿／手話サークル代表 石川真衣・障害科学類3年)



雙峰祭での手話カフェの様子

社会福祉研究会

- ①学生の多くが子どもや高齢者に寄り添いたいと思いこのサークルを選んでいるので真面目で優しい学生が多いです。グループによって違いますが、活動は真面目に、遊ぶときは思いっきり遊ぶのでメリハリがしっかりしている雰囲気です。
- ②社会福祉研究会は7つのグループによって構成されています。グループごとに活動内容や場所、日時が違って自分にあったグループを選んで入ることができることです。複数のグループに所属している学生もたくさんいます。
- ③子どもやお年寄りとか・長期的に関われるため信頼関係が作れることです。また子どもに学習指導をするグループでは教材を自分で作ることで教職の予行練習にもなります。人と人のつながりの大切さを身を持って実感できます。

(寄稿／社会福祉研究会代表 蒲原大稀・教育学類3年)



社会福祉研究会の学生同士の交流会の様子

令和4年度 課外活動団体援助金系別配分額について

令和4年度課外活動団体援助金の総額は2,130万円で、3月3日の筑波大学紫峰会基金運営委員会にて通常活動に対する一般援助金を1,100万円、宿泊交通費に対する遠征援助金を1,030万円とし、系別配分額が承認されました（下表参照）。

系別配分額は全課外活動団体から提出された過去1年間の収支計算書を三系それぞれで査定・集計し、学生財務会議（文化系サークル連合会、芸術系サークル連合会、体育会、全大会の代表者で構成）で議論・作成したものです。

その後、全ての課外活動団体（134団体）に対して課外活動団体援助金を支給しました。

令和4年度 筑波大学紫峰会基金課外活動団体援助金系別配分額

(円)

		文サ連	芸サ連	体育会	合計
援助金総額	援助金総額	1,481,353	2,286,820	17,531,827	21,300,000
	総支出	15,718,160	39,749,728	290,088,209	345,556,097
一般援助金	援助金額	1,131,336	1,850,768	8,017,896	11,000,000
	総支出	10,866,172	35,021,644	171,731,934	217,619,750
遠征援助金	援助金額	350,017	436,052	9,513,931	10,300,000
	総支出	4,851,988	4,728,084	118,356,275	127,936,347

令和4年度 課外活動団体援助金額ランキング

筑波大学紫峰会基金では、毎年三系の加盟団体に対して課外活動団体援助金を支給しています。この援助金は団体が過去1年間に活動した実績に対するもので、学生が中心となって配分額を作成しています。

課外活動団体援助金支給までの流れ

- ①各団体の会計がその団体の1年分（10月～9月）の収支計算書と領収証等を三系の財務局に提出
- ②筑波大学紫峰会基金運営委員会で課外活動団体援助金の予算額を決定
- ③各系の会計局を中心に提出された収支計算書と領収証等を査定し、折衝用の基礎資料を作成
- ④三系代表学生の自主的な折衝（学生財務会議）を経て系別配分額案を作成
- ⑤筑波大学紫峰会基金運営委員会で系別配分額案を承認
- ⑥系毎に加盟団体別の援助金額を決定
- ⑦課外活動団体援助金を全団体に支給

なお、各団体の援助金入金確認と利用状況については、毎年全課外活動団体に対して実施している会計面接の中で確認しています。今回は3月末に援助対象の134団体へ支給しました。令和4年度課外活動団体援助金（総額2,130万円）の中で、援助金額の多い上位10団体を紹介します。

令和4年度 課外活動団体援助金額 TOP10

(円)

順位	文化系サークル連合会		芸術系サークル連合会		体育会		体育会医学部会	
1	斬桐舞	228,981	混声合唱団	387,922	ラグビー部	1,718,715	医学水泳部	351,983
2	歌留多部	149,516	吹奏楽団	322,968	女子サッカー部	1,311,982	医学準硬式野球部	347,433
3	TOJO K-ON	139,473	津軽三味線倶楽部無絃塾	257,776	硬式野球部	1,112,666	医学アイスホッケー部	342,290
4	海洋研究会	106,442	管弦楽団	203,001	蹴球部	1,052,921	医学ヨット部	297,643
5	つくば鳥人間の会	102,240	ジャズ楽団	185,743	女子ハンドボール部	707,352	医学陸上競技部	297,029
6	筑波大鉄研「旅と鉄道の会」	69,057	ミュージカル集団ESSASSA	82,610	陸上競技部	664,361	医学ゴルフ部	150,840
7	天文研究会	50,521	筑波音楽協会	62,399	男子アイスホッケー部	662,943	医学バドミントン部	123,671
8	現代視覚文化研究会	47,395	応援部WINS	61,141	女子バレーボール部	575,907	医学サッカー部	119,237
9	茶道部和敬清寂社	46,633	邦楽部	52,385	男子バスケットボール部	555,985	医学バスケットボール部	50,863
10	茶道同好会	40,078	E. L. L. (筑波軽音楽協会)	48,404	バドミントン同好会	489,863	医学ラグビー部	44,705
	全33団体合計	1,481,353	全30団体合計	2,286,820	全53団体合計	15,150,579	全18団体合計	2,381,248